

第47回北海道学生選手権は24日、札幌市清田区の北海学園清田グラウンドで、1部の決勝と5、6位を決める順位戦を行った。全日本大学選手権・甲子園ボウルへつながる決勝は、北海学園大が北海道大を21-14で下して2年連続8度目の優勝を決めた。北海学園大は、甲子園ボウルの東日本代表決定戦準決勝を兼ねるパインボウル（11月3日）で東北学生連盟代表校と対戦する。

北海学園大は第2Q4分、自陣30ヤードでピッチを受けたRB山本遼太（3年、札幌国際情報高）が、そのまま右サイドラインを駆け上がる70ヤードTDランで6点を先制。直後に北海道大に逆転を許したが、第4QにQB河合祐輔（3年、札幌第一高）のパスが爆発し、2分にWR佐藤玲太（4年、札幌光星高）へショートパスを投じると、佐藤が好走を見せて50ヤードTDパスに。PATの2点コンバージョンもQB河合がWR寺川隆吾（3年、北海高）へパスを通して14-14の同点とした。8分には、敵陣3ヤードからの攻撃でWR寺川へTDパスを決めて再逆転に成功した。北海道大は0-6の第2Q終了間際にQB茨木大輔（3年、兵庫・六甲学院高）がWR佐藤健（4年、東京都市大付属高）へ4ヤードのTDパスを決め、PATのキックも成功して逆転。第3Qの最初の攻撃シリーズでRB榊琢也（2年、札幌東高）が12ヤードTDランを決めて14-6とリードを広げたが、最終Qの北海学園大のパス攻撃を封じ切れなかった。



北海学園大の高木幸樹ヘッドコーチは「予想通りの接戦になった。練習不足だったパスは試合の中でタイミングが合ってきた。パインボウルはもっと強い相手になる。接戦に持ち込み、粘り強くやりたい」と気を引き締めた。2TDパスの河合は「4年生とまたアメフトが出来ることに喜びを感じる。決勝のTDは、玲太さんに相手守備が集まり、空いたスペースに投げられた」と4年生エースに感謝。「今年も関東と対戦できるように、パインボウルも勝ちます」と宣言した。準決勝に続く先制のロングランTDを決めたRB山本は「自分が走るとチームが盛り上がる。パインボウルもブロックを信じて走る」と力強く言い切った。

順位戦は、1部初参加の釧路公立大がQB柴田雅大（4年、滋賀・虎姫高）の5TDパスなどで、室蘭工業大に63-0と大勝した。釧路公立大は1部残留を決め、室蘭工業大は最終節の31日、2部優勝の東京農業大と入れ替え戦を行う。

釧路公立大は第2Q6分、QB柴田のパスをWR高坂駿佑（1年、滝川西高）がワンハンドキャッチしてそのままエンドゾーンへ飛び込む31ヤードTDパスで先制。10分にはRB内海太陽（2年、江差高）が43ヤードTDパスキャッチ、前半終了間際にはエースWR泉川溪太（4年、岩手・不来方高）も47ヤードのTDパスキャッチを見せた。第3QもWR高坂の2本目の40ヤードTDパスキャッチ、RB田中巨人（1年、足寄高）の10ヤードTDラン、RB内海のTDランと加点。第4QもWR山口響生（1年、札幌清田高）の26ヤードTDパスキャッチ、DL加賀谷林兵（1年、秋田・大館鳳鳴高）の40ヤードファンブルリターンTD、WR泉川の2本目の4ヤードTDパスキャッチでリードを広げた。2年ぶりの実戦となった室蘭工業大も、1年生RB富樫司（札幌清田高）らが力走したが、TDには届かなかった。



釧路公立大のWR泉川主将は「帯広畜産大戦の負けから、しっかりと修正してきた。1部で初勝利できうれしい。来年以降への良いスタートになる」と満足そう。QB柴田も「準備してきたことを出し切った。下級生が頑張ってくれた」と後輩の成長を喜んだ。先制TDのWR高坂は「絶対に捕ってやろうと無我夢中で手を出したら入っていた」とワンハンド捕球を振り返り、「4年生の思いを引き継ぎ、1部優勝を目指したい」と大きな目標を掲げた。